

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102626		
法人名	有限会社 そよ風		
事業所名	グループホーム そよの里		
所在地	香川県 高松市 多肥上町 504番地2		
自己評価作成日	令和 3年9月1日	評価結果市町受理日	令和4年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	令和 3年 10月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花や野菜を敷地内にある菜園で作って収穫し、食事の時に提供したり、水やりを楽しんでいる。個々のニーズに沿った支援を行い、利用者のやりがいや達成感につながる支援を提供している。
また施設は閑静な場所にあり、自然環境にも恵まれている。木調を生かし、天井が高く開放感があり、暖かく落ち着いた家庭的な雰囲気の中で、ほのぼのと生活を送っている。平屋建てなので両ユニット同士の交流もし易く、また職員間の連携も図りやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

新しい広い道が付いた小学校の近くの住宅地の中に屋根付き平屋の事業所が左右対称に建てられており、周辺に庭木や、可愛い花等が植えられコーディネートされている。事業所では利用者が生活を楽しく過ごす試みとして、様々なレクリエーション開催や、認知症の進行予防の取組みに注力されており、職員の委員会活動にもレクリエーション委員会や教育委員会等があり、他の委員会に負けず活動されている。職員は利用者のやりたいことや希望を熱心に聞き取り、利用者の望む生活を実現させようと努力されている。利用者の明るさや穏やかな表情が印象的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を意識し、共有し合っている。職員一人ひとりが年間と月間の目標を定めて向上心を持ち、支援している	創業者の思いのこもった理念は、目立つ場所に掲示し、毎朝唱和されている。管理者も職員も理念を共有し、一人ひとりが目標を決めて自己研鑽がなされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来なら、同地区の自治会行事に積極的に参加したり、ボランティアの定期的な訪問などにより、利用者が社会の一員として交わっていただけるよう工夫しているが、新型コロナウイルス感染症により、現在は断念している	理念の一つに「地域と共に歩む」があり、地域ボランティアでの活躍が掲げられ、定期的な訪問や地域の清掃活動への参加、イベント等への招待を行い、交流がなされている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深める為、ユニットごとや施設全体で定期的に勉強する機会を設け、学び、意識を高め、周りに発信できるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	従来であれば、2か月に一度、関係機関の担当者、自治会担当者、ご家族などをお招きして運営推進会議を開催しているが、現在は該当する方全員に文面にて報告を行っている	運営推進会議は地域の協力者や関係機関の担当者・家族等と定期的に開催されている。現在は書面での報告となっているが、利用者の日常の様子や変動、行事の予定や内容、職員の動向など多彩な報告がきちんと行われている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出書類がある際は必ず出向き、関係を継続している。運営などでの不明点も市町村に相談し、助言を頂いている	季刊誌や提出書類などは関係機関に直接出向き、面識を得られる等に努め、信頼関係の継続が図られている。不明点や疑問点は相談に伺い、助言等を得られている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、身体拘束をしないケアを行っているが、やむを得ず身体拘束が必要になった場合は、ご家族と相談し同意を得た上で、職員間でしっかり検討し、最小限に留めて行っている。また定期的にモニタリングを行い、身体拘束ゼロに向けた取り組みをしている	現状では身体拘束の事例は見られない。委員会を作り取り組み、職員には研修の重要な課題として、身体拘束をしないケアを学んでいる。施錠についても安全性を配慮した上で、必要な時は開放されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より、虐待防止の指針を運営規定に掲示し、定期的に虐待についての勉強会を行い、職員一人ひとりが、認識することで虐待防止に反映させている		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で権利擁護について学び、必要があれば、サービスを導入できるような体制をとっている。現在、成年後見制度を利用した方が1名おられる		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、ご家族に契約書を用いて十分な説明を行い、双方が納得した上で契約を結ぶようにしている		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情受け付けの窓口の設置、利用者に定期的にアンケート調査などを行い、可能な限り要望に応えられるようにしている	日頃から利用者や家族等の貴重な意見を頂くことに注力されている。入所時に本人の希望を聞き、毎年アンケート調査も実施されている。聴き取った希望や言葉が利用者のお世話をする参考となり、運営に反映されている	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議への参加や、事業所単位での会議やユニット単位のミーティングを定期的に行い、意見交換を行ったり、決定事項を周知する場を設けている。現在は、全体で行う会議は自粛し、回覧形式で周知等行っている	管理者と職員はミーティングや定例会等で意見交換が行われている。委員会等の決定事項は回覧形式になっているが、代表者や管理者は職員と共に働き、話し合う機会も多く、関係は良好である	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と個別面談を行ったりして職員の悩み相談に応じたり、働きやすい環境になるよう配慮している。また、上部との架け橋になるようにしている		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が定期的に1か月間の目標を立て、自己研鑽したり、教育委員会を中心に勉強会を開き、個々のスキルアップにつながるよう取り組んでいる		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報の共有、交換などを積極的に行い、双方がよりよいサービスを提供できるよう協力し合っている		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の困っていることを瞬時に判断し、不安を払拭できるよう、利用者の立場になり、共感しながら、信頼関係を築いている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同じく、ご家族の気持ちに共感し、不安要素を取り除き、安心した生活が送れるよう助言を行っている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者とその家族が施設に何を求めているかを見極め、必要なサービスが提供できるよう努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添った介護を中心にゆっくりとした時間をともに過ごしながら、サービスを提供している。家族に近い存在になれるよう働きかけている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の施設での様子を定期的にご家族に報告する機会を設け、双方で支えていけるような取り組みをしている	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な方々といつまでも関わりが続けられるよう支援し、近隣にも出かける時間を作り、馴染みある場所で住み慣れた環境をいつまでも味わえるよう努めている。現在は外出は自粛している	コロナ禍では面会も自粛されているが、ガラス越しに会うなど関係の継続に配慮がなされている。通常時は、面会、外出・外泊等も行われている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の距離を縮める役割を担ったり、間接的な援助を行うことで孤立しないよう働きかけている。また、日中過ごすことの多いホールでの席順なども、工夫をしている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が完結した後も、気軽に立ち寄って頂けたり、今後の相談にも応じている。また、新規入居者を紹介していただくケースもある	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	画一的にならないよう、個々が求めている事を実現できるような取り組みや、一人ひとりがその方らしく安心した生活ができるよう取り組んでいる	入所時の面談やアンケートを通じての希望や意向の把握に加え、日々の何気ない言葉や様子等も参考にして、本人ならばどうか思うかチームで検討がなされている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生い立ちや、職歴、家族構成などのバックグラウンドや既往歴などを含む基本情報を収集し、把握するようにしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の行動パターンや普段の何気ない言動の観察を繰り返し行い、些細なことでも情報交換しながら、残存能力に応じた支援を行っている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループミーティングでカンファレンスを行い、疑問点、問題点を話し合い、利用者のニーズや目標を見つけながら、支援計画を立て、職員が統一したケアを行えるようにしている	利用者や家族等・医療関係者の意見を参考に、カンファレンスを行いチームで課題やケアの在り方を話し合い、意見やアイデアが計画に反映されている。支援計画は利用者に必要なケアを職員が統一して実施できるよう工夫がなされている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設での暮らし、表情、会話、身体状況、認知状態などを把握し、記録に残している。また、記録を通して、情報を共有できるようにしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々の変化に対応できるよう、また個々のニーズを的確に捉え、介護者それぞれの考え方を持ち合わせて、利用者にとって充実した日々が過ごせるよう、努めている	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年々高齢化していく上で、難しくはなっているが、いつまでも地域社会とつながっていただけるよう社会活動に参加することを目標として、取り組んでいる	

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者やご家族の希望に沿った医療が受けられるよう、日頃から医療機関関係者との連携を怠らないようにしている	かかりつけ医は本人や家族等の希望により決められている。医療機関への定期受診は家族が付き添い、主に送迎等の支援がなされている。受診結果などは、医療機関の関係者と連携が図られている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の観察の記録、医師からの指示事項など看護師を通して伝達を行い、職員全員が指示通りに対応できるよう、マニュアル化している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関に積極的に連絡を取り、ソーシャルワーカーや、病棟看護師などと、情報交換を行い、早期退院を目標に働きかけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ガイドラインに沿って、利用者本人、ご家族の意思を尊重し、その方らしく安心した最期を迎えられるよう、何度も話し合いを重ね、チームケアで何ができるのかを検討している	入所時をはじめ重度化の際など、場面に合わせて終末期の在り方を話す機会が持たれている。本人や家族等の意思や事業所のできること等をふまえ方針を決定、関係者で共有連携した支援に努められている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化し、職員が統一した対応が出来るよう、普段からマニュアルを掲示したり、シミュレーションなどを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者、防災訓練担当者を中心に定期的に防災訓練を行っている。計画、実践を繰り返し、緊急時に備えられるようにしている。近隣の方に呼びかけたり、隣接する同一法人施設の職員に協力要請をしたりしながら、訓練に取り組んでいる	通路には避難経路図・緊急連絡網の掲示物があり、定期的に防災訓練も実施されている。また、地域の避難所の確認や近隣との協力関係も築かれている	今後起こりうる多様な災害に更に強い事業所を目指し、地域特性や発生時間等配慮し、それぞれの場面に合わせた備蓄や緊急時の貴重品持ち出し等の更なる検討及び実施に期待します

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日本の歴史を築いてきた人生の先輩として一人ひとりを尊重し、充実した生活が営めるよう言葉かけや個別対応を行っている	一人ひとりのキャリアや生き方に敬意を表し、尊敬の気持ちで職員は接するよう努められている。また、生活が充実できるよう個別に対応したり、それぞれにあった言葉かけが心掛けられている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には自己選択を優先し、困難な方には間接的に希望を聞くなどして、できるだけ自己決定できるよう努めている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ゆったりとした時間の中で、一人ひとりの希望に沿った支援ができるよう努めている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択やお化粧など、自由におしゃれを楽しんでいただいたり、理美容サービスを利用したりして、清潔且つ快適な身だしなみができるよう支援している	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの咀嚼力、嚥下機能に応じ、見合った形状で食事提供している。むせやすい方には、早めにとろみを付けるなどして、安全で楽しい食事時間になるよう努めている。また、可能な方に、お膳拭きや台拭き等をお願いしている	安全性にも配慮して、一人ひとりの嚥下や咀嚼の状態にあった食事が提供されている。食事の準備や片づけ等できることは利用者と一緒に行われている。食卓はコロナ禍でソーシャルディスタンスとなるが、体操したり、音楽でムードが演出されたりと工夫されている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提供した食事で栄養が補えないときは、代替食品や栄養補助食品を用いたり、別の形で水分を補ったりしている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを習慣化し、清潔を維持している。状況に応じて訪問歯科診療も利用しながら、口腔内の健康を維持している	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄力、排泄パターンを把握し、それぞれに応じた支援を行っている。どんな排泄方式になっても、残存機能を生かした支援を行っている	本人の可能性や排泄のパターンを把握して、一人ひとりの能力に応じた支援がなされている。日中はトイレでの排泄、夜間も気配を感じて、早めにトイレ誘導を行うなど工夫や配慮がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を引き起こす原因を探し、便秘解消体操や、食事のとり方、便秘に効く飲食物を取り入れ、排便を促がしている。必要があれば、緩下剤などを使用したりし、快適に過ごせるように支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を把握しバイタルチェックを行い、個々に沿った援助方法で入浴を行っている。可能な限り湯船に浸かることを目標として、支援していきたい	一般の浴槽を使い、個々の身体状況に合わせた入浴介助が行われており、湯船にゆっくりひたりお風呂を楽しむことを目指した支援がなされている。また、必要に応じて清潔保持のため清拭やシャワー浴等も行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や空調の調節、湿度の管理を行い、使い慣れた寝具を積極的に使用することで、年間通して穏やかな睡眠を促がしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しく適切に服薬できるよう管理し、複数名で確実に服薬できているかどうかの確認を怠らないようしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができる範囲でのお手伝いや、趣味を生かしたレク活動などを行っている。レク活動も集団レク、個別レクなど充実させている。現在は、2ユニット合同で行うイベントは控え、ユニット単位で誕生会、夏まつり等計画して行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	従来なら外食を楽しんだり、施設に住居が移っても、屋外の事が把握できるよう支援している。ご家族にも協力して頂き、外出する機会が一回でも多く取れるよう支援している。近年は、新型コロナウイルス拡大の為、人との接触を控えめにしている	日常生活の中で花の水やり、洗濯物干し、散歩など付き添いで実施されている。コロナ禍では外出の機会は多く持てない状況であるが、玄関入り口でガラス越しの面会等対策をした実施が継続されている	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からお預かりした金銭を利用者に代わって管理し、必要なもの、欲しいものがすぐに購入できるようにしている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>外部から利用者宛に電話があった場合は、本人に引き継いで会話が楽しめるよう援助している。また、一ヶ月に一度レク活動の一環で絵手紙を描き、ご家族へ近況報告している。また、ご家族からもお返事のはがきを頂くこともある</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理整頓を心がけ、常に利用者が安全に快適に暮らせるよう配慮している。照明も明るすぎず、程よい間接照明を使用し、ストレスなく暮らせるよう努めている。また、壁にはその季節に応じた壁画や、行事での写真を展示し、季節を感じることができるようにしている</p>	<p>リビングは天井が高く採光やシーリングファンにより通気性が保たれている。リビングは建物の中心部にあり中庭を挟み、ガラス戸越しに他のユニットの様子が見られ、利用者同士の交流も可能である。壁面には季節感を感じる掲示物や各自の作品・季節の信息等が展示されている</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自由に居室に入出入りでき、プライバシーが守れるように支援している。また、他者との会話やレク活動など、利用者同士のコミュニケーションを図りながら過ごせる空間も設けている</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた家具を持ち込んで頂き、できる限り自宅での生活に近づけた部屋作りを心がけている。安全に暮らせるように危険なものは取り除き、利用者の居心地の良さを優先している</p>	<p>家具や寝具、思い出の品など馴染みの物が持ち込まれ、それぞれ自分の部屋が演出されている。利用者の前職や趣味に配慮してさりげなくカレンダーやポスターを壁に貼り付けたり、入り口に飾っていたりなど配慮や工夫がなされている</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>動線上に障害物があれば取り除き、利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて、事故、けがのない安心した生活が送れるよう心がけている。また、各居室のドアに表札をかけて、他室との区別をつけたり、タンスの引き出しには、中身がわかるようにラベルを貼るなどして、利用者自身が出し入れしやすいよう、工夫をしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そよの里の理念を、玄関、事務所、ユニットに掲示している。朝礼時に、全員で唱和しその理念を共有し、実践につなげている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来、ボランティアによる訪問活動を定期的に行ったり、同地区の行事などに積極的に参加できるようにし、社会の一員として交わっていけるよう援助していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、現在は断念している
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に認知症への理解を深める為の勉強会に参加したり、知り得た情報をご家族や、ご近所さんへの相談や助言に役立てている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催し、地域包括の方、ご家族に施設での活動を報告し、助言やアドバイスを頂き、サービスの向上につなげていたが、現在は文書報告にて代行している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出書類がある際は必ず出向き、日頃から連携を図っている。運営などでの不明点も市町村に相談し、助言を頂いている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り、身体拘束をしないケアを行っているが、やむを得ず身体拘束が必要になった場合は、ご家族と相談し同意を得た上で、職員間でしっかり検討し、最小限に留めて行っている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待についての勉強会を行い、職員一人ひとりが、認識することで虐待防止に反映させている

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で権利擁護について学び、必要があれば、サービスを導入できるような体制を整えている
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設を見学していただき、質疑応答により、利用者、ご家族に契約内容について十分に理解、納得して頂けるように説明し、同意を得た上で契約を締結している
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者アンケートを実施し、玄関に意見箱を設置したり、苦情委員会、苦情窓口を設け、利用者、ご家族の要望に迅速に対応できるよう努めている
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が管理者会議に参加し、職員に同会議での決定事項等を伝達し、業務の統一を図る。またユニット内でミーティングを行い、職員の意見交換の場を設け利用者サービスの向上に努める
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員へ個別面談などを行い、一人ひとりの意見を尊重しながら皆が連携をとりながら働ける職場環境作りに努めている
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が定期的に1か月の目標を立て、自己研鑽したり、職員間での勉強会を設けたりして、学習しスキルアップできるよう努めている
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換を行ったり、情報の共有を行い双方ともによりよいサービスを提供できるよう働きかけている

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の求めているものに早く気付き、同じ目線に立って、相手の気持ちに配慮しながら、関係を作っている</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者と同様、共感を持ち、不安に思う要素を受け入れ、双方が安心した生活を維持できるよう信頼関係を築いている</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の解決すべきニーズに対して、担当ケアマネージャーが事前に本人、ご家族から情報収集した上で、個別ケアによるケアプランを作成し、職員はケアプランに沿ったサービス提供に努めている</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者に寄り添い、利用者が安心して生活が送れるように少しずつお互いの信頼関係を築いている</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族が来所された時や、定期的にご家族へのお便りに利用者の様子をお伝えし、情報を共有することでご家族、施設双方で支えあうことを目標にしている</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族や友人など、大切な方とのお付き合いがいつまでも続くよう援助している。また、馴染みの場所など、利用者が大切にしてきた歴史を感じていただけるよう努めている</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を理解したうえで、ホールでの席位置にも配慮しながら、利用者同士の交流やコミュニケーション、信頼関係を築くようにしている</p>
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約完結後も気軽に訪問して頂けるような関係を大切にしている</p>

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人一人ひとりの思いを尊重し、可能な限り要望や希望に応じられるような支援をしている
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を大切にする為に、生活歴や生活の様子など、利用者やご家族から情報を集め、その方に合ったサービスを提供している
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の状態を把握し、情報の共有を行い、残存機能の維持や能力に合わせたケアを行っている
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループミーティング等で事例検討を行い、利用者、ご家族、職員と定期的に意見交換を行い、利用者のニーズや目標をしっかりと把握した上で介護計画を作成し、職員全員が同じケアが出来るようにしている
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者同士の会話、職員とのやり取り、表情や感情などを記録に残し、状況変化にすばやく対応できるよう、ケアプランの見直しをしながら計画を立てている
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況、ニーズをモニタリングし、本人、ご家族の意見も柔軟に取り入れ、サービスを提供している
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつまでも地域社会と関わっていけるように、可能な限り外出したり、地域の行事に参加する機会が持てるよう取り組んでいる。現在はコロナウイルス感染の拡大付き控えている

30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や、ご家族の希望に沿った、医療が受けられるように医療機関と連携をとっている。週1回定期往診で健康管理を行っており、緊急時や夜間での支援も可能である
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医往診時に診察の記録、指示などを行い、利用者の健康管理をしている。利用者の情報を必要時に伝え、往診が滞りなく行えるよう努めている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と常日頃から連携を図り、急変時に備えている。入院中の利用者がいるときは、入院先に出向き、ソーシャルワーカーと今後について話し合っている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の尊厳が守られるように終末期のケアについて、早期からよく話し合い、利用者、ご家族が安心して最期を迎えられるよう、看取りケアも取り組み、関係者とともに連携を図り支援している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し掲示して意識を高めたり、定期的に自主訓練を行い、職員全員が同じ対応が出来るようにしている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防局と連携を図り、協力を得ながら、災害時の訓練や緊急時の対処法について学ぶ機会を設けている

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの人権を尊重し、プライバシーを配慮した言葉掛けや状況に応じて対応を行っている</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>自己決定できる場合は、自己決定を最優先し、困難な利用者には介護者が間に入り、ご家族の希望を聞きながら、自己決定に近づける援助をしている</p>
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせて可能な限り、利用者の希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる</p>
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>理美容サービスを利用したり、好みの服装やおしゃれを楽しんだり、清潔感ある身だしなみができるよう支援している</p>
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前には、嚥下体操をし、誤嚥防止に努めている。利用者の咀嚼機能、嚥下状態を早期に把握し利用者に応じた形態で、利用者と職員と一緒に準備や片付けをしている。食事の時間が楽しいものであるよう配慮している</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や栄養バランスに考慮した食事を提供している。水分摂取量が少ない時は、代替飲料などで十分な水分が確保できるよう工夫している</p>
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。口腔内の状態を把握し、必要があれば訪問歯科診療を利用し、口腔内健康の維持に努めている。夜間では、義歯を預かり、洗浄消毒をしている</p>

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで自立支援を促し、自立で排泄可能な方の声かけや見守りも行っている。一人ひとりの能力に見合った排泄介助方法で援助している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や、便秘解消体操を取り入れ、自立排便困難者には緩下剤で調整しながら快適に排便ができるよう支援している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に配慮しながら、清潔を目的に入浴を楽しんでいただけるよう支援している。利用者の状態を見ながら、清拭やシャワー浴で個々に沿った支援をしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個々に合った活動や運動をして、夜間の睡眠につなげたり、日中の適度な休息で体をリフレッシュできるようにしている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しく服薬できるよう職員が複数で管理を行い、きちんと服薬できているかの確認も行うようにしている。症状の変化について、主治医や看護師と相談、指示を受けている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや好きなことを日々のレク活動で取り入れ、生活の一部として援助している。ご家族参加型の行事も計画し、楽しんでいただける工夫を行っている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な利用者については、個別で計画書に取り入れ、散歩、ドライブなど季節に応じて外出したり、ご家族が自由に連れ出せる機会を設けていたが、現在は自粛している

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族から現金を預かり、帳簿管理をしながら、代行管理を行っている。生活に必要な物品や嗜好品が自由に購入できる援助を行っている</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>月に一度、絵手紙レクを行い、季節の花や生き物、行事などを絵にし、ご家族や大切な方へ送っている。また、電話での会話が可能な援助も行っている</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>湿度、温度計の設置や、空気清浄機、加湿器、冷暖房の使用で一年中、快適に暮らせるよう努めている。また、シーリングファンを終日稼働させ、24時間換気を行っている。皆が集まるホールや各居室にも季節に合った、飾りを施している</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リラックスできるように、ホールに畳みスペースを確保し、誰でも自由に使えるよう開放している。また、プライバシーが保護されるよう全室個室で一人の時間をゆったりと過ごせている</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具の持ち込みや寝具の使用、思い出の品などを持ち込めるようにし、自宅での生活に近い雰囲気を作っている</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室のドアに表札をつけ、他者との区別をつけたり、トイレの場所が一目で分かるよう目印をつけたり、我が家のように暮らせるよう配慮している。また職員が一人ひとりの行動を見守り、安全に過ごせるよう支援している</p>